



長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

管から生じる胆管細胞がんで、両者は似ているように見えますが性質が違いため治療方針も異なります。

肝細胞がんの主な原因としては、B型肝炎ウイルス、もしくはC型肝炎ウイルスなど肝炎ウイルスの持続感染（長期間ウイルスが肝臓や血液内にとどまっていること）が知られていま

す。それ以外にはアルコール性や自己免疫性などがあります。最近では悪性の脂肪肝が注目されています。

しかし、「沈黙の臓器」という別名があるほどに、病気があっても自覚症状がほとんど現れないのが肝臓の悩ましいところ。だから定期検診で偶然に慢性肝炎や肝臓がんが見つかることが多いのです。

ですから、健康診断で肝機能の異常を指摘されたなら、億劫がらずに必ず腹部エコーや腫瘍マーカーなどの精密検査を受けてください。お酒が好きな方はなおさらです。

小松さんも、昨年11月の定期健診で肝臓がんが見つかりましたが、その直前に、ご自身の集大成とでもいうべきステージを成功させました。公演名はなんと、「『うつつ』小松政夫の人生前葬」——なんとというタイミングでしよう。「アンタはエライ！」と思わず、小松さんの十八番を真似してしまうほどに。

実は私も、50歳の時と、還暦の時に生前葬を2回も行いました。生きているうちにやったほうが、「ありがとう」と感謝の気持ちも伝えられるし、死への準備もできるはずかなあと。だけど「2回もやるのは異常や」と呆れる人が多く笑われました。少し早まりましたかね…。

しかし、小松さんのように絶妙なタイミングで生前葬を行える人は、現実にはなかなかいません。もしも今年ならコロナ禍でそれも叶わなかったはず。芸の神様に愛された男の、幸福な人生の仕舞い方に思えました。



「アンタはエライ！」

# 演芸の神に愛された「人生前葬」

## 185 コメディアン 小松政夫

この人のギャグの中にはいつだって、生きることのせつなさや、やるせなさが含まれていたからかもしれません。

わが国では、年間4万人以上の人が罹患（りかん）する肝臓のがんは、9割以上が、肝臓の細胞ががん化する肝細胞がんです。残る1割は肝臓内を走る胆

コメディアンであり俳優としても活躍された小松政夫さんが12月7日、都内の病院で亡くなりました。享年78。死因は、肝細胞がんと発表です。